

令和5年度 第3回 第4次浜松市教育総合計画策定委員会

開催日時：令和6年2月20日（火） 午後2時00分から午後4時00分まで

場 所：教育委員会 教育委員会室

出席者：第4次浜松市教育総合計画策定委員会委員

宮崎 正 （教育長）
安田 育代 （教育委員）
黒柳 敏江 （教育委員）
田中 佐和子 （教育委員）
神谷 紀彦 （教育委員）
鈴木 重治 （教育委員）
山下 絢 （日本女子大学人間社会学部 准教授）
島田 桂吾 （静岡大学教育学部 准教授）
高橋 宏典 （和地小学校 校長）
野秋 愛美 （天竜中学校 校長）
中村 幸一 （浜松市PTA連絡協議会 会長）
宮尾 晃輔 （浜松青年会議所 監事）

（関係課職員）

奥家 章夫 （学校教育部長）
山本 卓司 （学校教育部次長 兼 教育総務課長）
河合 信寿 （学校教育部次長 兼 教職員課長）
小畑多佳子 （学校教育部参事）
山本 治之 （学校教育部参事 兼 教育施設課長）
富部 哲也 （学校教育部参事 兼 健康安全課長）
内山 圭子 （指導課長）
影山 和則 （教育支援課長）
鈴木健一郎 （教育総務課 学校・地域連携担当課長）
山下 巧 （教育施設課 ICT教育推進担当課長）
中林 清美 （教職員課 採用管理担当課長）
草谷 篤 （市立高等学校長）
青島 治道 （教育センター所長）
大橋 泰仁 （こども家庭部 幼児教育・保育課 幼児教育指導担当課長）

傍聴者 7人

議事内容

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 協議
 - (1) 第4次浜松市教育総合計画の体系について（資料1-1、資料1-2）
 - (2) 評価・検証について
 - ア 令和5年度 評価・検証について（資料2-1、資料2-2）
 - イ 第4次浜松市教育総合計画 評価・検証の方向性について（資料3）
- 4 閉会

会議録作成者 小野田 宏親

記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 無

第3回 第4次浜松市教育総合計画策定委員会 会議録

1 開会

(山本次長) 令和5年度 第3回第4次浜松市教育総合計画策定委員会を開催する。本日の出席者については、次第の裏面に記載してあるのでご確認いただきたい。また、会議は公開となっている。それでは、教育長から挨拶を申しあげる。

2 教育長挨拶

(宮崎委員長) 本日はお忙しい中、第3回第4次浜松市教育総合計画策定委員会に御出席いただき、ありがたく思う。本会議は11月14日に続き、3回目の開催となる。第2回では、第4次浜松市教育総合計画における目指す子供の姿や教職員の姿、方針と政策、各施策のたたき台を示し、皆さんから様々なご意見をいただいた。

それを受けて本日は、2つの議題について協議いただきたい。1番目は、第4次浜松市教育総合計画の体系について、2番目は、評価・検証についてである。体系については、第2回までの策定委員会での皆さんのご意見を踏まえての修正案をお示しさせていただく。本日の協議で固めたいと考えているため、その視点でご意見をお願いしたい。

評価・検証については、令和5年度の取組状況・実態把握調査の結果と分析についてご報告し、それを踏まえて第4次浜松市教育総合計画に重点として取り組むべき施策や取組について皆さんのご意見をうかがいたい。

協議では、それぞれの立場から多面的にご意見いただければと思うので、よろしく願います。

(山本次長) ここからの進行は、教育長に願います。

3 協議 (1) 第4次浜松市教育総合計画策定の体系について

(宮崎委員長) それでは、協議に移る。1番目は「第4次浜松市教育総合計画の体系について」である。事務局から資料について説明願う。

資料1-1、資料1-2を用いて事務局より説明

(宮崎委員長) 事務局から目指す子供の姿と教職員の姿、計画体系の修正案について説明があった。委員会の中で、皆さんのご意見を踏まえながら修正した案である。この体系案に関して、ご意見ご質問あるか。

(安田委員) 目指す子供の姿や教職員の姿に関しては、すっきりしてわかりやすくなったと思う。4つの方針のⅣ「教育データ利活用」に関してだが、これは第4次浜松市教育総合計画で目玉になるものであると思うが、方針Ⅰが人づくり、Ⅱが環境づくり、Ⅲが連携と協働となっており、教育データの利活用はその3つの中に含めていって

もよいと思う。方針は大きく3つにした方が全体的なバランスがすっきりするのではないかと思う。

(宮崎委員長) 安田委員より方針Ⅳ「教育データ利活用」をⅠ～Ⅲと同等に取り出すのではなく、Ⅰ～Ⅲに溶け込ませていき、第3次と同じように大きく3つにした方がよいのではないかとご意見いただいた。その点について事務局より何かあるか。

(事務局) 教育データの利活用については、今後取り組んでいく教育DXに向けた様々な取組がⅠ～Ⅲの分野に広く関わっており、資料1-1では黄色で広く囲い、全ての項目に関わってくる位置づけである。どのように反映していくかは、事務局にて検討させていただきたい。

(宮崎委員長) 事務局より、方針Ⅳは全ての項目に関わる位置づけであるが、反映の仕方を検討するとあった。その他、方針Ⅳについていかがか。

(山下委員) 4つの大きな方針について事務局からの説明をふまえて、教育DXの推進は全ての項目の柱に共通する事項であり、現状のように別項目として教育データの利活用という項目を立てた方が、埋もれずに明確になるため、現状のままの方がよいと思う。それぞれに含めると、焦点がわかりづらくなるという意図で、あえて4つの方針にしているという理解である。

(宮崎委員長) 山下委員より、Ⅰ～Ⅲに溶け込ませてしまうと、新たな取組が埋もれてしまうのではないかとのご意見があった。その他ご意見いかがか。

(島田委員) 方針Ⅳ「教育データの利活用」の扱いについては、私も項目を別に立てた方がわかりやすいと思う。

2点目だが、施策間のつながりを検証するという文言が入るとよいと思う。従来の課題として、主な取組に関しては担当課が予算立てをして、それぞれ別立てで動き、施策間のつながりが検証しづらい状況があったと思う。それが教育DXが基盤となることで、検証項目と施策の相関関係であったり、市全体の施策を見直すことができる。そのため、項目として施策間のつながりの分析も入ってくるとよいと思う。

3点目に目指す子供の姿についてだが、「自分らしさを大切にする子供」が特出しされたことはとてもよいと思っている。国の施策や生徒指導提要等を見ると、よさや可能性という言葉が多く使用されている。おそらく、自分らしさの中には、よさや可能性という言葉が入ってくると思うが、これから学校や保護者、地域に周知していく時に、そういったものが含まれるということがわかるようにすることで、この自分らしさという言葉のイメージがつきやすくなると思う。

4点目に目指す教職員の姿だが1つ目に「子供の自分らしさを認める教職員」等の文言が入るとよいと思う。目指す子供の姿と教職員の姿が3つずつでバランスが

よくなることもある。また、教職員の愛情と情熱はとても大切であるが、子供や社会が変化する中で、よかれと思ったことが、実は子供たちにはマイナスであったり、優しさで声を掛けたつもりが、子供の受け取り方によっては状況を悪化させてしまうケースがある。あくまでも、子供たちが何を求めているのか、子供たちのよさや可能性、自分らしさを踏まえたうえで、教職員としてどう対応していけばよいかが必要であり、それには、目指す子供の姿を、先生方が受け止め指導していくことが必要だと思う。

5点目に学校安全についてである。政策4-2の「家庭・地域・関係機関と連携した学校安全の推進」が特出しされたことは、とてもよいことであると思う。学校事故の裁判でも、学校内の情報共有がなされていなかったり、先生方の連携のまずさから事故や事件につながったケースが複数ある。文言についてだが、この表現だと学校安全は外と連携すると受け取れるため、まずは学校内で組織体制をしっかりで行い、そのうえで外部と連携することがわかる表現の方がよいと思う。

(宮崎委員長) 「目指す教職員の姿」の1つ目に、新たに追加して「子供の自分らしさを認める教職員」を入れたらどうかという提案があった。その意見についていかがか。

(野秋委員) 子供の自分らしさを認める教職員の姿は、大変重要なことだと思う。指導力を磨くとは、時代に合わせてブラッシュアップしていくことだと思う。そういった意味で伴走者として、子供たちの自分らしさを認めていける教職員になっていこうというのは非常に大事であると思う。

(高橋委員) 子供の自分らしさを認める教職員は、まさに求められるところだと思う。換言すれば新しい人権意識を持った、市民感覚に富んだ教職員が求められていることは、学校現場でも感じる場所である。

(宮崎委員長) その他、目指す教職員の姿に関していかがか。

(黒柳委員) 子育てをしていても感じるが、先生方に自分らしさを認めてもらえることは、子供にとって凄く嬉しいことであると思う。色々な考えをもった子供たちがおり、不登校や精神的な部分で不安を抱える子供も多い。環境も違えば、考え方も違うため、個を認めることは、これからの教育に大切になってくると思う。

(宮崎委員長) 目指す教職員の姿に関しては、新たに子供の自分らしさを認める教職員といった意味合いの言葉を加えていきたいと思う。その他のところでご意見あるか。

(野秋委員) 基本理念であるが、今回は教育理念という言葉を使用していた。変更した意図を教えていただきたい。また、第4次浜松市教育総合計画のコンセプトである、主体性、多様性・包摂性、信頼・協働であるが、こういった言葉はこれまでの計画には入っていないと思う。あえて特出しすることで、子供や教職員だけでなく全ての人

たちにとって大切ですよというメッセージだと受け止めている。そうだとすると、次の段階の方針や政策になったときにも、このコンセプトとのつながりが見えるようなものになると、より意識されるものになると思う。

(宮崎委員長) 現在はまだ表していないが、今後方針、政策、施策や具体的な取組を作成する中で、コンセプトとのつながりを意識したものとしていく。今回は4つの方針、6つの政策を中心にまずは協議いただき、固めていきたいと思う。

また、1つ目の質問として教育理念から基本理念に変更した意図を説明いただきたいと質問があったが、事務局いかがか。

(事務局) 第3次浜松市教育総合計画の中では、基本理念と教育理念が両方使われており、どちらが上位にくるという点も含めてわかりにくい部分もあった。また、他都市の例では基本理念という言葉で掲げている都市が多い点や、基本的な理念として浜松市の教育をどうするか教育委員会から出していく方がわかりやすいという意味合いで、今回は基本理念という言葉を使用させていただいている。

(宮崎委員長) 以上で、第4次浜松市教育総合計画の体系について協議を終わる。本市の浜松市総合計画、教育推進大綱も令和6年に改定予定となっているため、今後も整合を図りながら策定していきたい。また、本日出されたご意見は、事務局の方で修正したものを提案していきたい。

(2) 評価・検証について

ア 令和5年度 評価・検証について

(宮崎委員長) 次に評価・検証についての協議に移る。事務局より資料について説明願う。

資料2-1、資料2-2を用いて事務局より説明。

(宮崎委員長) 事務局より、令和5年度に実施した各調査の結果、調査結果に基づく分析について説明があった。ご意見、ご質問あるか。

(中村委員) 本市は広いため、昔ながらの感覚の保護者が多い地域から、新興住宅地の保護者など多様な感覚を持つ保護者がいる中で、網羅的に数字が出ているという感想である。保護者の立場としては政策7のコミュニティ・スクールの周知・浸透が約4割と低い状況が気になる。先日のPTAの会合でも、コミュニティ・スクールを通じて地域に協力を求めようとしても、地域によって差があり、重い腰を上げないという意見が複数あった。そういった意味では、地域によってはコミュニティ・スクールの周知・浸透が課題だと考えているが、設置目標については順調に達成しており、内容を拡大していくのはこれからだと考えている。

政策2の「やらまいか精神」の醸成である。県のPTAの大会でも、県内他都市に

比べ浜松市の保護者は、建設的で具体的な話をわかりやすく話され、情熱的な方が多い。そういった方々との連携を第4次浜松市教育総合計画の中でどう図っていくか、今後の課題であり、楽しみでもあると思う。

(宮崎委員長) コミュニティ・スクールについては、他の政令市でも先進的に行われている事例もあるがご指摘のような課題も多いと聞く。本市は始まったばかりではあるが、本市にあった形のコミュニティ・スクールを作っていきたいと思う。また、熱意ある保護者の方との連携も図っていく必要があると感じる。その他、ご意見あるか。

(黒柳委員) 令和4年度より令和5年度にかけて数値が下がっている項目も複数あるが、教育委員会としての分析はいかがか。

(事務局) 昨年度に比べ数値が下がっている項目だが、専門家の先生方からは5ポイントを超えない範囲の推移であれば問題はないということである。ただ、どうしてこの数値になっているか、この数字が子供たちにどんな形で表れているかは注意深く見ていく必要がある。例えば、政策3の「確かな学力の育成」について自分で計画を立てて勉強している子供の割合が9.1ポイント下がっているが、これが全国的に見る成長過程での気の緩みなのか、実はそうでは無いのか。それらをしっかりと分析し、それが学力の定着にどのように影響していくかを含めて見ていく必要がある。そういった意味で今後の第4次浜松市教育総合計画に向けては、教育DXや政策のつながりを持ちながら総合的に見ていく必要があると考えている。

(鈴木委員) 政策2の成果指標として「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している子供の割合」とあるが、具体的に何に挑戦しているかなど教えていただきたい。

(事務局) 本調査では具体例まで調査していない。今のご指摘が、実態把握調査の課題部分でもあると考えている。画一的に事例を示した質問になっていないため、回答の尺度が子供たちそれぞれの尺度になっている。だからこそ本質を表している部分もあるが、本調査は色々な目線から回答が行われていると見ていただきたい。こういった課題も踏まえ、今後の第4次浜松市教育総合計画に向けては、専門家の委員の方々のご意見もいただきながら作成していきたい。

(山下委員) 先ほどの令和4年に比べ令和5年度の成果指標の数値が下がっている項目があるという話だが、下がっている数値や項目の多さだけでなく、どの学校が下がっているかという視点が重要になってくると思う。市全体の平均で2ポイントぐらい下がるのは問題ないが、特定の学校だけ大きく下がった項目があり、その影響で平均値にすると2ポイント下がっているとすれば、その大きく下がった学校へサポートや支援が必要になってくる。そのため数値は学校単位での視点で見る必要もあると思う。

次に、いくつか達成校と未達成校の分析を提示していただいたが、学校レベルで解決できる問題でサポートが必要なのか、家庭にお願いしないと実現しない問題なのか、そのあたりも区別しながら見極めていく必要があると思った。

最後に、体系図のところで目指す子供像の協議があったが、その実現に向け成果指標の実績値と目標値が合致するようになると、目指す子供の姿に近づくことができいくため、そういった視点も含め第4次浜松市教育総合計画に向けては設定していく必要があると思う。

(宮崎委員長) 貴重なアドバイスをいただいた。参考にさせていただきながら、第4次浜松市教育総合計画策定を進めていきたい。

(高橋委員) 資料2-1の5ページの「学校における働き方改革の推進」のところで、教職員の高ストレス者の割合が増加傾向とある。教育委員会がご苦労され、できるだけことをしていただいていることはわかっているが、複数の学校で教職員の人手不足の状況を聞く。12月に文部科学省で出された「公立学校教職員の人事行政状況調査」では、教職員の精神疾患による病気休職者が過去最多となったことが報告された。本市においても休職者や私傷病取得者の割合も増加しているとうかがっている。

その中で、第4次浜松市教育総合計画の施策を見ると、どれも大切であるが、現場ではさらに通常の業務に加えいじめ対応やICT関係、キャリア教育、不登校の対応等を人的な余力や時間がない中で行っていかなければならない。そう考えると、働き方改革については、原因の分析を丁寧に行い、どういった形で進めていくのか、検証方法の見直しをしていかなければならないと思う。

(宮崎委員長) 教職員の高ストレス者が増加している点や人手不足という話が、学校からあったが対応等、教職員課いかがか。

(河合次長) 教職員の高ストレス者の増加については、少しでも軽減や分散するために教職員等の確保を行いたい、有効な手立てが講じられていないのが現状である。教職員課としてもクラスの人数を少なくして、子供一人一人に目が行き届くようにすることが目標ではあるが、人材に限りもありティーム・ティーチングや学習集団を小さくする等の工夫をすることで少しでも教職員の負担の偏りを軽減できないかと模索している段階である。現場の皆さんからもよい意見があったらうかがいたいと思う。

(宮崎委員長) 教職員の働き方改革については、全国的に深刻な問題である。本市としても重く受け止め検討していかなければならない。

(安田委員) 先ほど山下委員より、全体の数値だけでなく各学校個別に見ていく必要があるとご発言があった。教職員の高ストレス者の増加の話でも、全ての学校で全体的に高ストレス者が増加しているのか、あるいは突出した何校かで全体の数値が上がって

いるのかを分析しなければならない。正規、非正規職員の割合も含め数値にどのような変化が起きているのかを分析し、何をどう投入し、支援していくのかを教職員の配置も含めて練っていかなければならないと思う。

(宮崎委員長) 教育データの利活用の部分では、本市として全体の方向性を見ることも大切であるが、個別に分析していくことも第4次浜松市教育総合計画では必要になってくると感じた。その他にご意見あるか。

(神谷委員) 指標に関してだがどのように作成し、どういった質問をするかで、回答も大きく変わってしまう。分析についても、それによって子供たちにどのような効果が出ているのかの見極めの難しい部分もある。第4次浜松市教育総合計画においては、単に数値の上下だけでなく、子供たちにどんな効果が表れているかを測れるような指標の設定や目標を設定していくべきだと思う。

(宮崎委員長) 第4次浜松市教育総合計画では、ご指摘のあった点も含め、成果指標や目標値の設定を行っていききたいと思う。

(田中委員) 評価・検証報告書の資料編②のキャリア・パスポートの活用についてだが、「キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと思いますか」に8割近くの児童生徒が肯定的な回答をしている。一方、保護者への調査で「キャリア・パスポートを通して、お子さんが何をがんばったか、または頑張りたいと思っているか知っていますか」では肯定的な回答が4割に満たない低い数値となっている。保護者の調査では、低い数値が数年続いていると思うが、保護者への周知に関してどのような分析をされているかがいたい。

(事務局) 保護者への調査に関してだが、キャリア教育という言葉自体があまり浸透していなかったと思われる。キャリア教育自体は新しいことを始めたわけではなく、従来の流れの中での教育活動をキャリア教育という名前で推進していこうという点が、うまく理解されていなかった部分もあると思う。

(内山課長) キャリア・パスポートの活用については、学校の取組はかなり進んでいる。一方、自宅に持ち帰って利用したり、参観会等で使用したりするなど、保護者との活用については学校間で差があると思われる。その結果、このような数値に表れていると思う。今年度も取組を継続しており、早急に対応していきたいと考えている。

(田中委員) キャリア教育を保護者の方へ周知するにあたって、認知の数値が低いキャリア・パスポートを使わなくてはならないのか。

(内山課長) キャリア・パスポートを通して、お子さんがどんな思いや願いを持って、毎日生

活しているのか等について、保護者の方へ伝える手立ての1つとして重要だと考えている。

(田中委員) キャリア教育に関しては、先生方の子供への関わりも含めて色々な取組をされていると思う。そういった意味では、保護者への周知に関してキャリア・パスポートに固執するのではなく、視点を変えて別の方法で保護者に周知していく方向もあると思う。

別件で先ほどの働き方改革の話だが、疲弊して心因性の病気を発症する教職員が多いのは全国的に問題になっている。資料1-2 第4次浜松市教育総合計画の体系図では、政策3-4 教職員の「教職員がいきいきと働ける環境の整備」に施策として入っているが、簡単に解決できない問題であるため、今後もていねいに扱っていただきたいと思っている。

(鈴木委員) キャリア教育は課題解決型学習とも呼ばれている。こちらの方がわかりやすいと考える方もいる。そういった意味では、このキャリア教育という呼び方が保護者に認知されにくい状況を作っている部分もあると思う。

(事務局) 鈴木委員からご指摘があったが、キャリア教育というと、職業教育を思い浮かべてしまう方が多く、そちらに誘導されてしまうのが社会的な流れとしてある。理念はとてもよいが、誤解を招きかねない部分もあった。その部分をていねいに説明していく必要があるため、第4次浜松市教育総合計画ではキャリア教育をどう扱っていくかを検討していきたい。また、キャリア・パスポートの件だが、子供たちがどんな活動をして、どんな思いを持ったのかを保護者と共有できるツールであり、キャリア教育の一層の理解や協力へとつながると考えている。使い方や保護者の方へ周知方法等を、今後検討していきたい。

(宮崎委員長) キャリア教育という言葉が先に走っていて、保護者の方の中には、質問に関しての意図や中身がわかりにくいという話もある。第4次浜松市教育総合計画に向けては、そういった部分も含め、検討していきたい。

(中村委員) キャリア教育の話だが、伊佐見小学校のPTA活動の中でキャリア教育をテーマにして、保護者が職業の内容や魅力を子供たちに伝えるというイベントを行った。大変盛況で、子供たちの目がキラキラしていたという感想をいただいている。そういったPTAが参加する活動は増加している。その意味では、徐々にではあるが、キャリア教育は認知されつつあると思う。そのため、第3次浜松市教育総合計画のキャリア教育は、まだまだ浸透していないのではなく、徐々に広がっていると保護者の立場としては思っている。

(宮崎委員長) 評価・検証について、キャリア教育、教職員の働き方改革を中心にご意見をうかがった。今後、ご意見を参考にしながら事務局の方で取組を含め検討させていただ

く。

次に、第4次浜松市教育総合計画において取り組むべき施策や取組についての協議に移る。

第3次浜松市教育総合計画では、キャリア教育、教育の情報化、コミュニティ・スクールを重点に掲げて様々な施策に取り組んでいる。各施策ともに全市的な推進を主眼に取り組んできた結果、各学校で子供の実態や地域の状況などに応じた多様な取組が進められており、一定の成果が得られたと考えている。

第4次浜松市教育総合計画では、社会情勢の変化や国の動向、本市の現状を踏まえ、新たな重点を設定し取り組んでいく必要があると考える。前回の策定委員会では、浜松らしさという点も含め、方向性は考えていくべきとの話もうかがった。ここでは第4次浜松市教育総合計画で、何を重点に取り組んでいくべきか、委員の皆さんのご意見をいただきたい。

(安田委員) 子供が自分のよさを見つけて欲しいと思う。それにプラスしてこの浜松という地域に住み、成長していく中で、この地域のよさがわかる子供になってもらいたいと思う。そんな子供たちが将来、この地域を支えてくれる人材になって欲しいと思う。

(黒柳委員) 安田委員の地域を支える人材に関してである。県外に通学している県内出身大学生のUターン就職率が減少しているという話を聞いた。一方で、浜松の大学に進んだ大学生はそのまま浜松に就職することが多いということである。せっかく、小中学校で浜松のよさがわかる子供を育てているのであれば、高校、大学にも目を向けて、人材が他県に流出せず、そのまま浜松に残って未来を支えてくれる子供が育てられたらよいと思う。

2点目は、不登校児童生徒についてである。多様性の時代と言われるが、多種多様な学びの場や方法があり、学校に戻すばかりが大切ではない。誰一人取り残されることがない、子供の社会的自立に向けて支援していくことが必要である。

(神谷委員) 県内の県立高校で定員割れする学校が増えており、教育環境や学習環境が整っていると考える生徒が、私立高校へ進学する割合が増加していると聞く。公立の小中学校においても、今にも増してどんな学びができ、どんな力が身につくのか等、特色をしっかりと出し、子供たちにていねいに伝えていかないといけないと思う。

また、教職員の働き方改革についてだが、本市だけでできる部分とできない部分がある。本市ができる取組を率先して行うことで、熱意ある先生も集まりやすく、そういった先生が増えれば、子供も個に応じたていねいな教育が受けられると思う。働き方改革の取組を継続し、さらに推進していただきたい。

(野秋委員) 6つの政策の中で、学校としてここがうまくいけば多くの問題が改善方向に向かうと思われるのが政策2「多様なニーズに対応した学びや支援の充実」である。昨年、中央教育審議会の義務教育の在り方ワーキンググループの中間まとめの中に「学校と学校以外の学び場の境界線が揺れているとの指摘もあった」という言葉が

あった。不登校児童生徒への対応等で、悩みを抱える子供が、学校でなくても学ぶ場所があり、そこで学んだことが社会につながり、自立へ向かうことができる。不登校児童生徒をそういった場所へつなげていくのは、当然目指す方向であるということである。

しかし、学校と学校以外の教育の場は同じかということそうではないといった議論もあった。そう考えると、改めて学校の意義や価値は何かということを学校自身が考えていかなければならないと思った。そして、学校として全ての子供が自らの自立に向かうことができるような支援をしていかなければならないと思い、この政策2「多様なニーズに対応した学びや支援の充実」が重要であると考えている。

(宮崎委員長) 委員の皆さんの本市への想いを聞かせていただいた。皆さんのご意見を参考に、国土縮図型の本市のよさを生かしながら、第4次浜松市教育総合計画を策定していきたい。

イ 第4次浜松市教育総合計画 評価・検証の方向性について

(宮崎委員長) 次に評価・検証についての方向性についての協議に移る。事務局より資料について説明願う。

資料3を用いて事務局より説明。

事務局より評価・検証について今後の方向性の説明があった。ご意見やご助言などいただきたい。

(山下委員) 今までの議論を踏まえると、限りある資源をいかに効率よく、必要なところに最適に配分できるかというところに評価・検証が活用できると思う。

例えば政策2「多様なニーズに対応した学びや支援の充実」の話があったが、その政策を柱にするには、どれくらいニーズがあって優先順位が高いかを具体的な数字をもって示し、明らかにすることができるのが評価・検証の意義である。

その一方で、各項目の目標値が設定されているが、何かを得れば何かを失うことも起きてくる。例えば、「いじめなど困ったことがあった時、先生に相談しやすいですか」の数値が上昇すれば、その一方でストレスを抱える教職員が増加したり、長時間労働になったりすることが考えられる。

それらを考えると、全体像をみて、調和を図っていくことができるのが、様々な観点で捉えている評価・検証であるため、第4次浜松市教育総合計画においては、全体の調和が保てているかというチェックと、優先順位が何であるかということが評価・検証の方向性になると思う。そうすれば調査に協力いただいている方々にも、有意義な調査と思っていただけるのではないかと思う。

(島田委員) 浜松市では、この評価・検証が教育委員会の自己点検評価としても捉えられてい

る。そのため、教育委員会の教育施策が、基本理念や施策間で機能しているか、推進したいことが定着されているかを確認する目的でも作られてきたと思う。

第3次浜松市教育総合計画後期計画では、キャリア教育、教育の情報化、コミュニティ・スクールを推進していくことが3つの大きな柱であった。

例えばであるが、評価・検証によってキャリア教育で育てたい力を踏まえているか、キャリア・パスポートを活用しているかを、数値を見ながらどれくらい定着してきたかを判断し、定着してこなければ必要な手立てを講じてきたと思う。ここまで丁寧にデータを分析している自治体は少なく、これからも大切にしていきたいと思う。

一方で、学校側が欲しいデータと教育委員会が欲しいデータが一致しない状況も考えられる。キャリア・パスポートの話だが、本来の理念が周知されず、ただキャリア・パスポートを活用しましょうと書くことが目的になってしまい、子供たちの負担感や何のために書いているのかとなってしまう。

今後、各課で様々な取組や目標を設定すると思うが、それらを単独の取組で検証するのではなく、総合的に判断し、目指す基本理念や子供の姿を合致させていく必要がある。今後に向けては、課の垣根を超えて連携し、取り組むことができるかがポイントになると考える。

(宮崎委員長) 委員の皆様のご意見を参考に今後の評価・検証についても進めていきたいと思う。

以上で第3回第4次浜松市教育総合計画策定委員会を閉会する。